



大梅

DAI BAI

大梅拈華山 圓通正法寺



山主挨拶

正法寺 山主 盛田 正孝

正法寺に御縁を頂いてより、末山法類有縁の方々の御法愛を賜り十年目を迎える事が出来ました。時恰も太祖大師七〇〇回大遠忌の時、改めてその法縁の深きに思いを致しております。

毎朝開山堂に両祖大師をはじめ歴住御任職の尊牌に詣する時、そこには大遠忌の理念である相承を具現化した姿を見る事が出来ます。真実なるものを求めて止まざる者と、それを伝えんとする人との法縁があり、先人より受け継いだ襷を次代の人達に渡し続けて来た祖師方の禪者としての御姿

があります。さらに、瑩峨両尊に直接連なる者である事を改めて確認することが出来ます。此の度の大遠忌で初めより一貫して思い続けて来た事は瑩峨両尊の御誓願、信念が自らの信念になっていくかどうかと言う自らへの問いでした。七百年の伝統が今に生きていると言う意味は私達一人ひとりの日々の実践の中にあると言う意味であります。伝統はその精進をよく理解し自分のものにする事が肝心であり、その時初めて自らの信念となります。大遠忌の今こそ御両尊と自らの絆を改めて結び直す時と思考します。斯の如き思いにて山内一同辨道致します故、何卒御指導御法愛の程お願い申し上げます。

ご挨拶

正法寺末寺護持会会長 願成寺

芳川 春彦

昨年より御本寺の年間行事も本来の形に戻しながらの開催となり、本年も6月の開山忌、末寺護持会総会を御本寺様を会場に開催致しました。

また、今年は大本山總持寺大遠忌の年にて、4月の大本山總持寺正當法要では当山の任職であった故・成田芳髓禅師の27回忌法要が4月13日(土)御親香にて行われ、前日には副貫首の盛田山主老師がお務めということにて、当山からも役寮、末寺、寺族などで団参を募り、20数名ほどで随喜させていただいた次第でした。

正法寺においても毎月の法話会や新しい形での一般者参加型の行事に積極的に取り組まれ、これからの地方僧堂のあり方を模索している所です。

この大梅をご覧の皆様には常日頃より正法寺ご支援に沢山のご厚情を寄せて戴き、ありがたく思っております。宗門内外も今後は様々な形で従来の行事も工夫しなければいけないものも出ております。僧堂運営もますます厳しいものが予測されますので、皆様方の更なるご理解とご協力の程をお願い申し上げます、発刊のご挨拶とさせていただきます。





僧堂だより

監事兼単頭 松森 弘隆

正法寺専門僧堂では現在、9名の修行僧と11名の役寮が修行生活をしており、普段の日課の概要は以下の通りです。

- ▼ 4時30分 振鈴(四九日は5時)
- ▼ 4時45分 晩天坐禅
- ▼ 5時30分 朝課(法堂)
- ▼ 6時00分 梵鐘
- ▼ 6時10分 小食(応量屐鉢)
- ▼ 6時30分 日天作務
- ▼ 7時00分 朝参
- ▼ 9時00分 山内外各所の作務
- ▼ 11時00分 日中飄経(仏殿)
- ▼ 11時30分 中食(昼食)
- ▼ 13時00分 山内外各所の作務
- ▼ 15時30分 晩課(法堂)
- ▼ 16時00分 法堂作務
- ▼ 17時30分 薬石
- ▼ 18時00分 淋汗(四九日は開浴)

- ▼ 18時30分 学科あるいは、
- ▼ 20時10分 止静、夜坐一炷
- ▼ 21時00分 開枕

このように決められた日課(スケジュール)にしたがって規則正しい生活を送っております。

本年、春の上山者を御紹介しますと、3月25日に石川永観兄、國生龍俊兄、沼田凌成兄の3名が上山、同30日に「入堂の拜」を終え、本格的な修行に入りました。

本来、禅僧としてのあり方からすれば「道心」(仏道を求めてやまない熱意、他を救おうとする真摯な心、意気込み)が大切であることに気づき精進する姿勢を身に着けることが重要であることは言うまでもないことです。大衆と役寮が一体となってお互いを敬い修行に励み続けることが、僧堂の基本姿勢であります。今後も、正法寺専門僧堂ではこの姿勢を忘れることなく行持綿密に修行を進めてまいります。



山門行持

- ▼4月7日(日)
 - ・總持寺 世界禪チャレンジ 於 正法寺法堂
- ▼4月8日(月)
 - ・釈尊降誕会
 - 導師・春日和光 後堂
- ▼5月15日(水)
 - ・夏安居配役行茶
 - ・首座入寺式
 - 首座 千葉隆平兄・宮城県 第401番 少林寺徒弟
 - ・結制土地堂念誦
 - 導師・松森弘隆 単頭
 - ・楞嚴會啓建
 - 導師・春日和光 後堂
- ▼5月19日(日)
 - ・守時タツミピアノコンサート
- ▼6月1日(土)
 - ・僧堂換簾
- ▼6月9日(日)
 - ・月例法話会
 - 法話者 松森弘隆 単頭
- ▼6月13日(木)
 - ・当山五十五世得道芳髓大和尚 忍光忌速夜献湯 諷經
 - 導師・松森弘隆 単頭
 - ・当山開祖無底良韶禪師速夜献湯 諷經
 - 焼香師・秋田県 蔵堅寺 住職・門脇真海 老師
- ▼6月14日(金)
 - ・当山五十五世得道芳髓大和尚 忍光忌正當献飯 諷經
 - 導師・春日和光 後堂
 - ・当山開祖無底良韶禪師正當献飯 諷經
 - 導師・盛田正孝 山主
- ▼7月14日(日)
 - ・月例法話会
 - 法話者 海野義範 布教師
- ▼7月15日(月)
 - ・本則行茶
 - 從容録 第15則「仰山挿鉢」
- ▼7月16日(火)
 - ・首座法戦式
- ▼7月28日(日)
 - ・山門孟蘭盆大施食会
 - 導師・盛田正孝 山主
- ▼8月22日(木)
 - ・楞嚴會滿散
 - ・解制土地堂念誦
- ▼8月23日(金)
 - ・夏制中解制人事行礼
 - ・圓鏡調印式
- ▼9月1日(日)
 - ・月例法話会
 - 法話者 春日和光 後堂

開山忌併修当山五十五世 得道芳髓大和尚忍光忌

令和6年6月13日(木)、法堂に於いて、松森弘隆単頭が導師を勤め、当山五十五世得道芳髓大和尚(愛知県第152番龍谷寺三十六世住職)忍光忌(二十七回忌)速夜献湯諷經を厳修いたしました。引き続き、当山開祖無底良韶禪師速夜諷經では、正法寺直末、秋田県蔵堅寺住職、門脇真海老師が焼香師を務められました。

翌14日(金)、当山五十五世得道芳髓大和尚忍光忌正當献飯諷經を春日和光後堂が導師を務めました。続いて当山開祖無底良韶禪師正當献飯諷經を盛田正孝山主が導師を務め、それぞれ厳修いたしました。



太祖 瑩山禪師七〇〇回 大遠忌 特別企画 世界・禪チャレンジ

大本山總持寺では4月1日(月)から、太祖瑩山禪師七〇〇回大遠忌本法要が始まりました。この50年に一度の大遠忌を大本山總持寺だけのものではなく、全国の曹洞宗寺院の皆様と繋がる機会と捉え、全国の曹洞宗寺院を会場に坐禅イベント總持寺・世界禪チャレンジが開催されてきました。

4月7日(日)には、曹洞宗大本山總持寺様と正法寺をオンラインで繋ぎ、双方同時に坐禅に親しむ催し、總持寺世界禪チャレンジが正法寺を会場に開催され、200名を超える皆様にご参加いただきました。

イベントでは、禪トークやクイズなどもあり、楽しさを感じていただく中でも、メインの坐禅体験においては、大本山總持寺副貫首でもある盛田正孝正法寺山主よりオンラインで禪についてお話しいただきました。

当日は、エフエム岩手の番組、夕刊ラジオで活躍中のパーソナリティー阿部沙織さんもゲストで登場しました。初めての方でも丁寧な説明を聞きながらの坐禅体験。クイズステーションや一筆写経体験もあり、楽しみながらの心静かな時間を過ごしていただきました。また、参加者全員に山内役寮が書きあげた参加記念特別御朱印をプレゼントしました。

さらに5月12日(日)には、總持寺・世界禪チャレンジの集大成イベントが開催されました。この集大成イベントでは、これまで開催してきた正法寺を含む、全国8都市の曹洞宗寺院と北米、

南米、ヨーロッパ、オランダのお寺が加わり、大本山總持寺がオンラインでつながって、全世界同時坐禅を実現しました。

坐禅はもちろんですが、豪華ゲストの皆さまとの禅トークも行われました。スペシャルゲストとして、脳科学者の有田秀穂さん、ディジュリドゥ奏者で画家のGOMAさん、元サッカー日本代表の中澤佑二さん、そして、ゲストMCには仏像研究者でお笑いタレントのみほとけさんらが、大本山總持寺会場に出演され、オンラインを通して全会場へ中継されると同時に、その模様が動画配信サイトを通じてライブ配信されました。

御参加いただきました皆様、イベント運営スタッフの皆様、報道各社、その他たくさんの方々に支えられ盛会に開催することが出来ましたこと感謝申し上げます。





令和六年夏制中 首座法戦式

『仰山挿鋏(きょうざんそうしゅう)』

令和6年5月16日(木)より、首座・千葉隆平(宮城県第401番少林寺徒弟)、書記・熊谷浩雄(秋田県第116番龍安寺徒弟) 辨事・佐々木大賢(宮城県第418番光明寺徒弟)を中心に、夏制中に入りました。入制に際し、15日(水)に配役行茶、首座入寺式、入制土地堂念誦が、翌16日(木)朝課罷に法堂人事行礼、僧堂人事行礼をそれぞれ修行しました。7月15日(月)の本則行茶では、盛田正孝山主が、『從容録』第15則『仰山挿鋏』について提唱をされました。翌16日(火)には首座法戦式が厳修され、当山直末、ならびに岩手県第6教区、および有志宗侶の御随喜を頂き、本則について10人の問者と気迫溢れる問答商量し、説破致しました。首座法戦式が終わっても制中は継続いたしますので、千葉首座を中心に山内一同精進させて頂きました。



首座寮から



首座

宮城県 第401番

少林寺 徒弟 千葉 隆平

今制中、首座の任を与えて頂き、身の引き締まる思いです。正法寺専門僧堂に上山し、1年が経ちましたが、まだまだ未熟な私が果たして何処まで首座としての任を全うする事が出来るか不安ではありますが、「任に当たって他に譲り難し」の言葉の通り、全力で首座の任に当たらせていただきます。

今制中における本則は、従容録第15則「仰山挿鏃」であります。この本則を考える上で欠かせないものが教化衆生の考えであります。これまでの修行生活を省みると、自身が仏道を歩むための修行という意識が強かったと感じます。「欣求菩提教化衆生」ですので、自分のためだけの修行ではなく、他にも心を向けなければなりません。もちろん、修行を支えて下さっている師匠や、家族、師寮寺の檀家の方々など身近な方々へ想いを忘れることなく精進してまいります。

また今年、太祖瑩山禪師七〇〇回大遠忌の年でもございます。その瑩山禪師のお言葉の中に「今生の仏法修行、この壇越の信心によりて成就す」とあります。これもまた教化衆生の考えに繋がるものであり、本堂の修行の在り方を考えるために欠かせない教えです。今僧堂で安居しているのは、修行の仕方を学んでいるだけで、本堂の修行は僧堂を出て、一人の禅僧としてどう生きて行くかであると盛田山主老師も仰っております。その言葉を今一度自分の胸に刻み、今制中では首座の任を全うすると共に、制中期間だけでなく、これから先の人生においても有意義なものとなるように励んでゆきたいと思えます。

そして、制中期間、私を支えてくださる書記和尚、辯事和尚を中心に大衆一如となって引き締まった制中にしたいと思います。



書記

秋田県 第116番

龍安寺 徒弟 熊谷 浩雄

私は前冬制中に引き続き、今夏制中も書記和尚の役を頂きました。前冬制中は、初めて書記の任に当たることになりましたので、想像以上に物事が進捗しなかったり、焦って行動した結果、空回りしてしまうことが多くありました。今制中はその時の経験を活かし、早めの行動を取ることが出来たこともあり、少し心に余裕を持つことが出来ました。

また、今夏制中において首座を務める千葉隆平兄は正法寺専門僧堂に1年以上安居しているので、安心感があり、修行のための修行になる制中になると思います。また、辯事の任に当たっている佐々木大賢兄は他の専門僧堂での安居経験があり、首座法戦式の経験もあり、頼もしい存在であります。だからと言って油断してはいけません。知識があったとしても、それを行動に移さなければ、それは知識が無いのと同じことです。先人達から教えていただき、それを速やかに行動に移し、自分から見ても、他人から見ても納得できるように努力、精進していく事こそ修行だと私は考えております。現在、正法寺専門僧堂の安居者は、新到和尚さん3名と特殊安居1名を加え、11名になりました。今日までの経歴、年齢、出身が異なる11名なので、中々簡単にはまとまりませんが、皆やるべき事は同じです。それは、「修行をすること」に尽きます。そこに古参和尚や新到和尚の区別無く、その修行に参する姿勢次第だと思えます。真剣に物事に取り組み、一所懸命に修行に邁進すれば、その努力が無駄になることはないでしょう。逆に手を抜いたり、楽な方へ逃げていては、それは本末転倒であり、何のために安居しているのか分からなくなると思います。「修行は自分持ち」、修行に終わりはありません。この世に生きている間、全てが修行でございます。この安居中はその準備、修行のための修行をさせていただいている事を忘れず。お師匠様や檀信徒の皆さんに「素晴らしい修行をしてきた」と言っていたできるように、日々、仏道修行を精進して参りたいと存じます。



辯事

宮城県 第418番

光明寺 徒弟 佐々木 大賢

私は今夏制中、辯事の配役を頂戴いたしました。辯事とは制中の際、書記和尚と共に首座和尚を補佐する任を持つた和尚の事であり、また、首座法戦式においては開口板を読み上げ、最初の問答を首座和尚へ問うなど非常に重要な任であります。制中とは、所謂修行の強化期間であり、修行僧が今一度、修行に対する意識や行動を引き締める大事な期間でもあります。お釈迦様の教えに「自燈明・法燈明」という言葉があります。正法寺専門僧堂で修行できる時間には限りがあります。どのような安居をすればいいのか、どのような修行をすればいいのか。修行というものに悩み、迷う事もあります。そんな時こそ、今一度自らを見つめなおし、お釈迦様の教えに耳を傾けることが大切だと思います。一挙手一投足をより丁寧にし、自らの進退、正法寺専門僧堂へ来た目的を改めて確認し弁道精進していきたいと思えます。

月例法話会

本年も恒例とまりました月例法話会を開催しております。参拝の方々に少しでも禅の教えを伝えられるように、全4回の法話会を予定しております。

第1回は6月9日に松森弘隆単頭に皮切りに、第2回の7月14日には、海野義範布教師が法話を担当致しました。

10月にも法話会が開催されます。心穏やかに過ごすヒントを見つけにいられてはいかがでしょうか。

6月9日(日) 松森弘隆 単頭

7月14日(日) 海野義範 布教師

9月1日(日) 春日和光 後堂

《今後の開催予定》

10月6日(日) 盛田正孝 山主



守時タツミ ピアノコンサート

5月19日(日)、正法寺法堂前において守時タツミ・ピアノコンサートが正法寺境内に於いて開催されました。今年で4回目となる守時タツミさんのコンサートは、今回初めての屋外での開催となりました。新緑の風に吹かれ、爽やかな旋律が境内地に流れました。



修学旅行

5月22日(水)、札幌市立羊丘中学校より約150名の生徒さんが法堂内において坐禅を体験され、これからの進路に対する心持を新たにされました。静かに何もしい時間を過ごしたのは、今日が初めてという声もあり、坐禅の素晴らしさと正法寺山内の荘厳さを肌で感じられたようです。



拝登諷経

6月6日(木)、茨城県曹洞宗青年会の僧侶ら14名が正法寺を拝登されました。拝登諷経を上げられ、盛田山主よりの御挨拶の後、記念撮影をされました。

御参拝团の中には、大本山總持寺安居中に盛田山主と共に修行された方も多く、思い出深い参拝となりました。最後に、正法寺自慢の精進料理を堪能され正法寺をあとにされました。



梅花特派講習会

6月21日(金)、曹洞宗岩手県宗務所は、山形県から永福寺(山形県第3・596番)の住職で、梅花流一級師範の高橋伸幸老師をお招きして、正法寺を会場に梅花流特派講習会を開催しました。この日の参加者は、岩手県の第1、第5、第6教区内寺院の檀信徒、梅花講員約50名が参加。山内には詠讃歌と鈴鉦の音が響きわたり、荘厳な空気に包まれていました。



緑陰禅のつどい

7月18日(木)、岩手県曹洞宗青年会主催の「緑陰禅のつどい」が開催されました。青年会員約40名の皆様が御来山され、法堂において坐禅を二炷されました。コロナ禍前の生活を取り戻しつつある本年ですが、今回も青年会会員僧侶のみでの坐禅研修となりました。磐山禅師から峨山禅師へ、そして無底禅師へ伝わった禅風を肌で感じることができた正法寺に於いて、岩手県の青年僧侶の皆様が参禅されたことに深い意味を感じとることができる緑陰禅となりました。



令和6年夏制中 解制行持 楞嚴会満散

4月1日(月)から21日間に亘る太祖磐山紹瑾禅師七〇回大遠忌本法要に随喜のため、副貫首の盛田正孝山主が大本山總持寺に上山されました。正法寺に帰山された後、5月15日(水)と遅い首座入寺式から始まった夏制中も、8月22日(木)、に解制を迎えました。

法堂土地神前に於いて、松森弘隆単頭が導師を務め、令和6年夏制中解制土地堂念誦を厳修。了而、法堂に於いて、春日和光後堂が導師を務め、楞嚴会満散を修行致しました。

23日(金)には、朝課罷に解制人事行礼を行いました。圓鏡調印式では熊谷浩雄書記が認めた圓鏡に印が押されました。続いて盛田正孝山主から、首座へ修行の好評と労いの言葉がかけられ、同席の春日和光後堂、松森弘隆単頭諸老師からも祝意が示されました。



新役寮紹介

副寺 藤村 浩禪

(岩手県 第128番 吉祥寺住職)



転寮・転役

維那補 伊藤 裕磨

(岩手県 第120番 菅生院副住職)



上山者紹介

▼令和6年3月30日(土)

宮城県 第67番
同慶寺 徒弟

石川 永観 兄



栃木県 第48番
常楽寺 徒弟

國生 龍俊 兄



宮城県 第359番
保昌寺 徒弟

沼田 凌成 兄



特殊安居

▼令和6年1月23日(火)

秋田県 第106番
長禪寺 住職

金子 宗元 兄



上山にあたり

宮城県 第67番

同慶寺 徒弟 石川 永観

窓から坐禅堂内へ入り込む音はいつの間にか春先の凜とした鶯の鳴き声から、けたたましい蟬の声へと移り変わっており、私がこの正法寺専門僧堂に上山してから早くも4ヶ月もの月日が流れているのだと改めて気付かされます。

3月末、私は多くの不安を抱えながら上山致しました。最も不安の中心にあるのは私の持病である「I型糖尿病」でした。

2年前の夏、突如この病気を発症しました。飲食の度にインスリンの自己注射が必要であり、また血糖コントロールの為、1日に7、8本もの注射を打つというライフスタイルへ一変しました。治療と並行して安居が出来るのかと主治医、そして私自身も心配の中で上山日を迎えたのですが、正法寺専門僧堂の役寮さん方々や山内大衆による病気に対する理解、そして配慮を頂きながら非常に恵まれた環境に於いて安居する事が出来ています。感謝の心を忘れず、己の「真の面目」とは一体何か、そういうものを見つめる日々を過ごしたいと思えます。

宮城県 第359番

保昌寺 徒弟 沼田 凌成

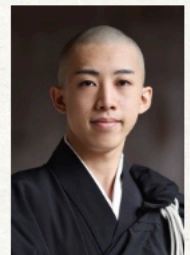
私は令和6年春に正法寺専門僧堂に上山しました。上山寺は、正法寺専門僧堂の厳格な規律の中で、修行僧の本文を果たすことが出来るのだろうかと心配でした。

しかし、山主老師、後堂老師、単頭老師、役寮の皆様や諸先輩方が懇切丁寧に御指導下さったお陰で段々と法式進退が身に付いてきました。皆様にも温かく見守って頂きながら修行を行っていることに感謝申し上げます。安居生活を修行の場として有意義に過ごす事が出来るかは自分次第です。このことを肝に銘じながら僧侶として生きていくための基礎をしっかりと身につけていきたいと思えます。

また、修行は決して一人で乗り越えられるものではありません。安居している者同士、切磋琢磨して様々な課題や壁を乗り越えて行きたいです。

そして、上山するにあたり尽力頂いた師匠ならびに、家族への感謝の気持ちを忘れずに一日を大切に過ごしていきたいと思えます。

送行者紹介



栃木県 第48番
常楽寺 徒弟
國生 龍俊 兄

送行にあたり

私は正法寺専門僧堂に安居する以前、すっかり道に迷っていました。努力して合格した理系の大学での学びと真剣に向き合う事も、楽しむ事も出来ず、将来について思い悩むようになって居たのです。そんな時期に、師寮寺での御縁に恵まれて首座を務めさせて頂くことが出来ました。首座法戦式の間答をきっかけに禅や仏教の本を読むようになり、考え悩んだ末に、修行によって自分を見つめなおそうと正法寺専門僧堂への安居を決意し、大学を休学して上山させて頂きました。

安居中、坐禅、勤行、作務三昧の日々を過ごし、ひと月程が過ぎた頃、私の心はいつの間にかすつきりとしたものになっていました。それぞれの行が唯々日々の行いとしてあるように、私の人生もまた、唯々日々まっすぐとつとめるべきもの、あるいは、それ以上でなければならぬと気づかせて頂いたのです。私は、学問の道を大きく方向転換して駒澤大学仏教学部の編入学試験を受験する予定です。これから先の人生を歩む中でも紆余曲折を様々経験するでしょう。しかし、僧堂安居の中で得たものはきっと変わらず、自分の道をまっすぐ進む指針となってゆくと感じています。ありがとうございます。

安居者募集中

正法寺専門僧堂では、安居者を募集しております。少子化が進む現代において、盛田正孝山主の考える僧侶教育を実践するべく、元大本山永平寺維那を務めた春日和光後堂をはじめ、現在は14名の役寮が従事し修行僧の育成に励んでおります。四九日においても暁天を欠かさずおこなう山風のなかで、維那和尚による法要進退、典座和尚による精進料理、特派布教師による布教の心得、特派梅花講師による梅花流講義のきめ細やかな指導により、多岐にわたる経験を積むことができるのが正法寺専門僧堂の特徴です。

僧堂の在り方が問われる今、お弟子様の修行の場として、正法寺専門僧堂をご案内いただければ幸いです。安居募集期間は、春と秋の解間期間となりますが、制中間間においてもお受けすることが出来ます。その際は、ご相談ください。

また、参禅の経験を長く積まれた方で、本来の修行を経験してみたい一般の方の修行も募集しております。ご本人の希望をお聞きしながら、期間や内容を定めることができますので、修行体験をご希望の方はご連絡ください。ただし、修行には、参禅道場からのご推薦をいただいております。

正法寺専門僧堂は年間2期間の開旦過を設け、弘法利生を志す安居者を募集しております。

夏安居開旦過 1月20日～3月31日 / 冬安居開旦過 7月20日～9月30日

《掛搭資格》

※曹洞宗の僧籍簿に登録されている者であって中学校卒業以上の者。

本山僧堂への安居修行後、更なる坐禪修行、参究・実践を積みたい方。諸事情により、本山僧堂への安居が難しい方も御相談下さい。※正法寺専門僧堂堂則より引用

僧堂安居を希望される方は、「正法寺専門僧堂 監事寮」までお問い合わせ下さい。監事寮より掛搭志願資料をお送り致します。

正法寺専門僧堂 監事寮

Tel. 0197-26-4041(代) / Fax. 0197-26-4107(代) / Url. shoboji.net/professional_sodo/

受付時間 9:00～17:00 (11月～3月は16:00まで) 無休

御寄進

法堂中央香台

寄進者
宮城県 273 番 法昌寺様

この度、開山忌にあわせ、令和5年冬制中の山川広行首座の師寮寺である宮城県法昌寺(住職 山川瑞芳老師)様より、法堂中央香台を御寄進いただきました。九曜紋のレリーフをあしらいました。威風堂々とした佇まいの香台です。山内諸行持に活用させていただきます。衷心より御礼申し上げます。



姫神コンサート告知

来たる、10月5日(土)、今年も正法寺(御本堂)を会場に、「第2回・法堂姫神コンサート」が開催される運びとなりました。これは、坐禅という文化を発信し、正法寺の大きな法堂を奥州市の魅力として伝えるために開催されます。さらに本年は、新たな読経と姫神とのコラボレーションが予定されております。

午前と午後の2部公演を予定しています。公演時間は、午前の部が10時から12時。午後の部は13時から15時です。どちらも正法寺法堂内でのコンサート公演になります。

皆様、お誘い合わせの上、お申込くださいますようお願い申し上げます。



正法寺 七百年の祈り 禅による心の平穏 法堂姫神コンサート

プログラム

- 山主 盛田正孝山主による法話
- 親子読経奉納、読経心掛と音響のコラボレーション
- 「祈り」をテーマとした読経によるシンセサイザー演奏

会場へのアクセス

公共交通機関をご利用の方

- 東北本線 宮城野駅 徒歩15分
- 東北新幹線 宮城野駅 徒歩15分

お車をご利用の方

- 東北自動車道 宮城野IC 徒歩10分

観覧券について

観覧券は、本会事務局(宮城県仙台市宮城野区)にて購入いただけます。

チケットの購入方法

お問い合わせ先

正法寺 法堂姫神コンサート事務局

TEL: 0197-26-4041

〒981-8585 宮城県仙台市宮城野区正法寺

